

農林水産統計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

平成18年12月 5日公表

平成18年産水陸稲の収穫量（九州）
- 水稲の作況指数は78、収穫量は78万400t -

【調査結果の概要】

- 九州における平成18年産水稲は、台風第13号による潮風害等の被害が発生したことに加え、登熟期前半の日照不足及び台風通過後の少雨により登熟が抑制されたため、10a当たり収量は390kg、作況指数は78、収穫量は78万400tとなりました。
- 陸稲の収穫量は160tとなりました。

表1 平成18年産水陸稲の収穫量（九州）

区分	水陸稲計		水稲				
	作付面積	収穫量	作付面積	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	収穫量
	ha	t	ha	kg	kg		t
九州計	200 200	780 600	200 200	390	502	78	780 400
福岡	41 200	157 400	41 200	382	501	76	157 400
佐賀	29 000	76 000	29 000	262	530	49	76 000
長崎	14 700	47 300	14 700	322	474	68	47 300
熊本	42 000	184 800	42 000	440	515	85	184 800
大分	26 200	103 500	26 200	395	503	79	103 500
宮崎	21 500	100 000	21 500	465	491	95	100 000
早期	-	-	9 340	472	470	100	44 100
普通	-	-	12 100	460	507	91	55 700
鹿児島	25 600	111 500	25 600	435	479	91	111 400
早期	-	-	6 340	435	439	99	27 600
普通	-	-	19 300	435	492	88	84 000

区分	陸稲		
	作付面積	10a当たり 収量	収穫量
	ha	kg	t
九州計	82	195	160
福岡	-	-	-
佐賀	-	-	-
長崎	7	182	13
熊本	18	139	25
大分	0	253	0
宮崎	11	206	23
鹿児島	46	215	99

注：1）計が内訳と一致しないのは、ラウンド（四捨五入）のためです（以下、各表も同じです）。

2）「-」印は事実がないもの、「...」印は調査を欠くものを示します（同上）。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html】

この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】7Pに掲載しています。

【解 説】

1 水稲の作柄概況

(1) 早期栽培

(主産県：宮崎・鹿児島)

全もみ数は、宮崎、鹿児島とも平年並みとなりました。

登熟は、出穂期が日照不足であったものの、その後はおおむね天候に恵まれたことから、宮崎、鹿児島ともに平年並みとなりました。

このことから、宮崎の10a当たり収量は472kgで作況指数100、鹿児島が同435kgで同99となりました。

(2) 普通栽培

全もみ数は、日照不足の影響で各県ともに少ないないしやや少なくなりました。

登熟は、台風第10号、13号の襲来による被害の発生に加え、登熟前半の日照不足及び台風通過後の少雨の影響により著しく阻害されたため不良となりました。

このことから、九州における水稲の10a当たり収量は390kgで作況指数78となりました。

県別（早期栽培を含む）の10a当たり収量及び作況指数は、福岡が382kgで76、佐賀が262kgで49、長崎が322kgで68、熊本が440kgで85、大分が395kgで79、宮崎が465kgで95、鹿児島が435kgで91となりました。

図 水稲の作柄表示地帯別作況指数

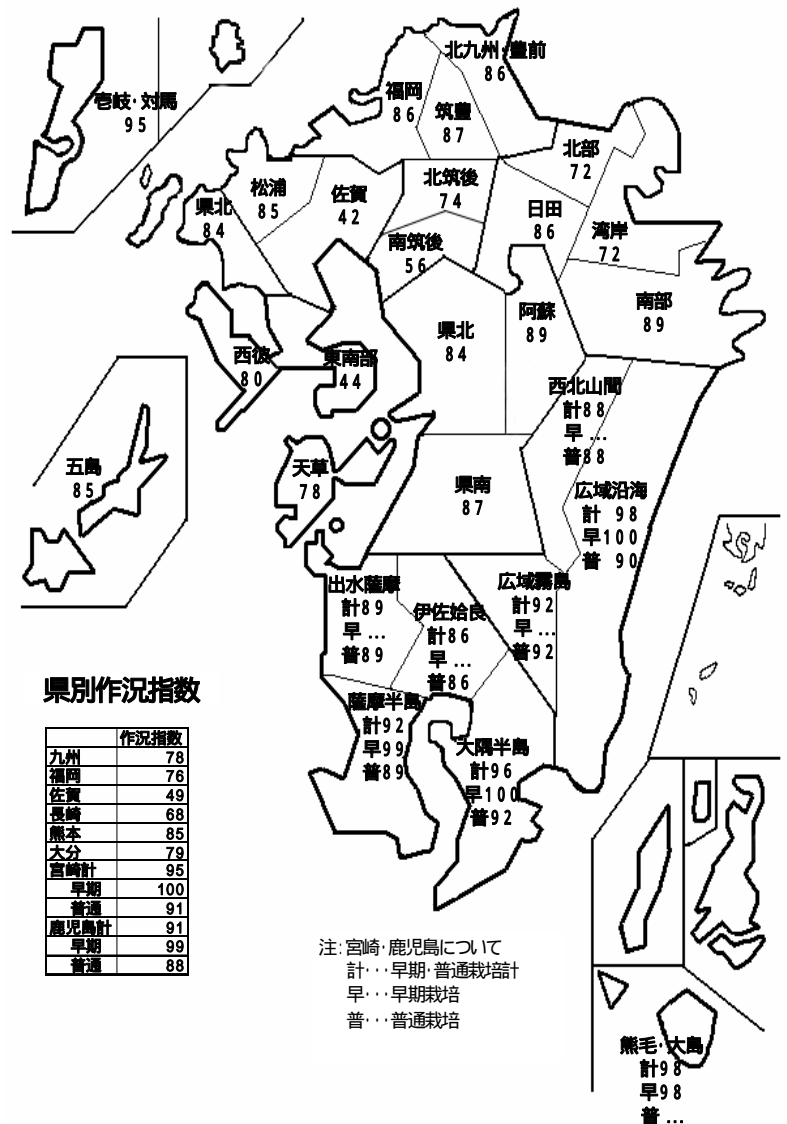


表2 平成18年産水稻の作柄概況（九州）

区 分	刈 取 期					穂 数 の 多 少 (平 年 比 較)	一 穂 も み 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較					
				平 年 比 較	前 年 比 較				
月 日	月 日	月 日	並 み	2日遅	少 ない	やや多い	少 ない	不 良	
福 岡	8.28	10.4	10.23	並み	2日遅	少ない	やや多い	少ない	不良
福 岡	8.24	10.8	10.15	4日早	2日早	少ない	やや多い	少ない	不良
北九州・豊前	8.25	9.20	10.18	並み	3日遅	少ない	平年並み	少ない	平年並み
筑 豊	8.20	9.23	10.17	1日遅	5日遅	少ない	やや多い	少ない	やや不良
北筑後	9.23	10.12	11.2	並み	2日遅	少ない	やや多い	少ない	不良
南筑後	9.21	10.9	10.26	3日早	1日早	やや少ない	やや多い	やや少ない	不良
佐 賀	8.31	10.8	10.28	1日早	並み	少ない	平年並み	少ない	不良
佐 賀	9.18	10.9	10.29	1日早	並み	少ない	やや少ない	少ない	不良
松 浦	8.22	9.26	10.15	1日遅	3日遅	少ない	平年並み	少ない	やや不良
長 崎	8.23	10.8	10.22	並み	並み	少ない	平年並み	少ない	不良
西 彼	9.23	9.28	10.9	1日遅	3日遅	少ない	多い	少ない	不良
東南部	10.1	10.13	10.25	1日早	2日早	やや少ない	やや少ない	少ない	不良
県 北	8.21	10.9	10.19	並み	1日遅	少ない	やや多い	少ない	不良
五 島	8.17	9.23	10.5	5日早	2日早	少ない	やや多い	少ない	不良
壱岐・対馬	8.26	9.28	10.16	3日遅	4日遅	少ない	多い	平年並み	不良
熊 本	8.19	10.6	10.25	並み	1日遅	やや少ない	やや少ない	やや少ない	不良
県 北	9.25	10.14	10.27	1日遅	2日遅	平年並み	やや少ない	やや少ない	不良
阿 蘇	9.15	9.25	10.16	2日遅	並み	少ない	やや少ない	少ない	平年並み
県 南	9.12	10.10	10.30	1日早	1日遅	やや少ない	平年並み	やや少ない	不良
天 草	8.6	8.10	10.10	2日遅	2日遅	やや少ない	平年並み	平年並み	不良
大 分	9.14	10.14	10.24	1日早	4日遅	少ない	やや多い	少ない	不良
北 部	9.16	10.19	10.28	2日遅	6日遅	少ない	やや多い	少ない	不良
湾 岸	9.13	10.15	10.28	並み	3日遅	少ない	平年並み	少ない	不良
南 部	9.9	10.11	10.17	1日早	2日遅	少ない	やや多い	やや少ない	不良
日 田	9.19	9.30	10.21	4日早	7日遅	少ない	多い	やや少ない	不良
宮 崎									
早 期	7.29	8.3	8.10	6日遅	6日遅	やや少ない	多い	平年並み	平年並み
広域沿海	7.29	8.3	8.10	6日遅	6日遅	やや少ない	多い	平年並み	平年並み
普 通	10.1	10.14	10.24	1日遅	2日遅	少ない	やや多い	少ない	平年並み
広域沿海	9.24	10.9	10.21	1日遅	1日遅	少ない	やや多い	少ない	やや不良
広域霧島	10.4	10.17	10.26	1日遅	1日遅	少ない	やや多い	少ない	平年並み
西北山間	9.26	10.7	10.17	1日遅	5日遅	少ない	平年並み	少ない	やや良
鹿 児 島									
早 期	7.26	8.2	8.11	5日遅	2日遅	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
薩摩半島	7.27	8.2	8.8	5日遅	1日早	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
大隅半島	7.28	8.5	8.15	6日遅	4日遅	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
熊毛・大島	7.16	7.21	7.30	2日遅	2日遅	少ない	やや少ない	少ない	良
普 通	10.5	10.14	10.24	1日遅	1日遅	少ない	平年並み	少ない	やや不良
薩摩半島	10.1	10.9	10.16	1日早	並み	少ない	やや少ない	少ない	やや不良
出水薩摩	10.5	10.14	10.23	並み	並み	やや少ない	平年並み	少ない	やや不良
伊佐始良	10.7	10.18	11.1	1日遅	2日遅	少ない	平年並み	少ない	不良
大隅半島	9.30	10.8	10.17	2日遅	並み	少ない	やや多い	少ない	やや不良

2 水稻の被害概況

水稻の被害面積は73万9,000ha、被害量は33万6,700tとなりました。

これを被害種類別に見ると、風水害が最も大きく、次いで日照不足、紋枯病、いもち病となっています。

表3 平成18年産水稻の被害種類別被害面積及び被害量(県別)

区 分	総 数		気象被害					
			計		うち 風水害		うち 日照不足	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	739 000	336 700	369 500	273 600	162 200	168 500	198 600	103 500
福 岡	140 200	65 400	71 900	58 000	30 700	35 500	41 200	22 500
佐 賀	93 200	94 200	55 200	88 300	27 100	65 900	27 800	22 100
長 崎	48 100	29 800	29 100	26 600	14 400	21 600	14 700	5 000
熊 本	135 700	52 200	76 500	41 900	30 400	20 200	41 600	20 800
大 分	91 200	41 300	45 200	32 000	18 800	16 300	26 200	15 700
宮 崎	88 700	21 900	38 300	11 000	16 400	1 320	21 500	9 610
鹿児島	142 300	31 900	53 300	15 800	24 400	7 690	25 600	7 770

区 分	病 害						虫害	
	計		うち いもち病		うち 紋枯病		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	208 400	41 600	56 000	14 300	73 500	17 100	146 500	19 000
福 岡	42 900	4 600	4 650	747	14 100	1 900	22 300	2 330
佐 賀	17 100	3 030	2 790	427	9 820	2 100	20 100	2 560
長 崎	5 800	1 090	2 330	509	2 720	436	11 800	1 710
熊 本	37 300	7 700	9 560	2 520	9 330	1 640	20 800	2 430
大 分	30 600	7 930	9 700	2 740	8 380	3 020	14 100	1 010
宮 崎	28 000	6 540	11 400	3 440	9 950	2 490	21 000	4 180
鹿児島	46 900	10 700	15 600	3 950	19 200	5 470	36 400	4 750

区 分	虫 害				そ の 他	
	うち ウンカ		うち カメムシ		計	
	被害面積	被害量	被害面積	被害量	被害面積	被害量
	ha	t	ha	t	ha	t
九州計	22 400	4 750	23 300	4 500	14 600	2 510
福 岡	2 720	403	2 240	617	3 090	487
佐 賀	1 250	240	573	82	782	358
長 崎	2 440	563	2 300	706	1 360	369
熊 本	3 290	410	2 310	497	1 060	143
大 分	1 080	177	1 010	76	1 270	328
宮 崎	6 370	1 740	6 140	1 560	1 430	220
鹿児島	5 260	1 220	8 680	963	5 650	609

【参考 1】 平成18年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（収穫期）

区 分	作況指数	区 分	作況指数
福 岡	76	宮 崎	95
福 岡	86	広域沿海	98
北九州・豊前	86	広域霧島	92
筑 豊	87	西北山間	88
北筑後	74	早 期	100
南筑後	56	広域沿海	100
佐 賀	49	普 通	91
佐 賀	42	広域沿海	90
松 浦	85	広域霧島	92
長 崎	68	西北山間	88
西 彼	80	鹿 児 島	91
東南部	44	薩摩半島	92
県 北	84	出水薩摩	89
五 島	85	伊佐始良	86
壱岐・対馬	95	大隅半島	96
熊 本	85	熊毛・大島	98
県 北	84	早 期	99
阿 蘇	89	薩摩半島	99
県 南	87	大隅半島	100
天 草	78	熊毛・大島	98
大 分	79	普 通	88
北 部	72	薩摩半島	89
湾 岸	72	出水薩摩	89
南 部	89	伊佐始良	86
日 田	86	大隅半島	92

【参考 2】平成18年産水稻玄米重のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は農産物検査規格三等以上の品位を有し、かつ、ふるい目幅1.70mm以上に選別された玄米の量としています。

農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量内訳を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：％
平均対差：ポイント
収量内訳：kg

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
農業地域							
九州							
重量割合 本年値	100.0	48.2	33.0	8.6	5.2	3.0	2.0
平均対差		8.9	4.3	2.3	1.4	0.5	0.4
(収量内訳)	(390)	(188)	(317)	(350)	(371)	(382)	(390)
福岡							
重量割合 本年値	100.0	49.9	30.4	9.2	5.4	2.8	2.3
平均対差		7.6	2.0	2.8	1.6	0.6	0.6
(収量内訳)	(382)	(191)	(307)	(342)	(363)	(373)	(382)
佐賀							
重量割合 本年値	100.0	52.2	30.8	9.0	5.3	1.5	1.2
平均対差		7.0	4.8	3.1	0.9	1.2	0.6
(収量内訳)	(262)	(136)	(217)	(241)	(255)	(259)	(262)
長崎							
重量割合 本年値	100.0	40.7	35.6	9.5	7.5	4.3	2.4
平均対差		13.4	5.5	2.5	3.4	1.5	0.5
(収量内訳)	(322)	(131)	(246)	(276)	(300)	(314)	(322)
熊本							
重量割合 本年値	100.0	46.0	35.3	8.6	4.7	3.3	2.1
平均対差		12.7	7.2	2.9	1.3	0.9	0.4
(収量内訳)	(440)	(202)	(358)	(396)	(416)	(431)	(440)
大分							
重量割合 本年値	100.0	41.3	34.1	10.7	6.9	4.8	2.2
平均対差		14.8	5.4	3.4	3.5	1.6	0.9
(収量内訳)	(395)	(163)	(298)	(340)	(367)	(386)	(395)
宮崎							
重量割合 本年値	100.0	57.1	29.6	6.1	3.7	2.1	1.4
平均対差		1.4	1.9	0.0	0.5	0.2	0.2
(収量内訳)	(465)	(266)	(403)	(432)	(449)	(458)	(465)
鹿児島							
重量割合 本年値	100.0	48.7	35.1	7.5	4.2	2.5	2.0
平均対差		6.6	5.1	1.3	0.2	0.0	0.4
(収量内訳)	(435)	(212)	(365)	(397)	(415)	(426)	(435)

注：1) 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均です。

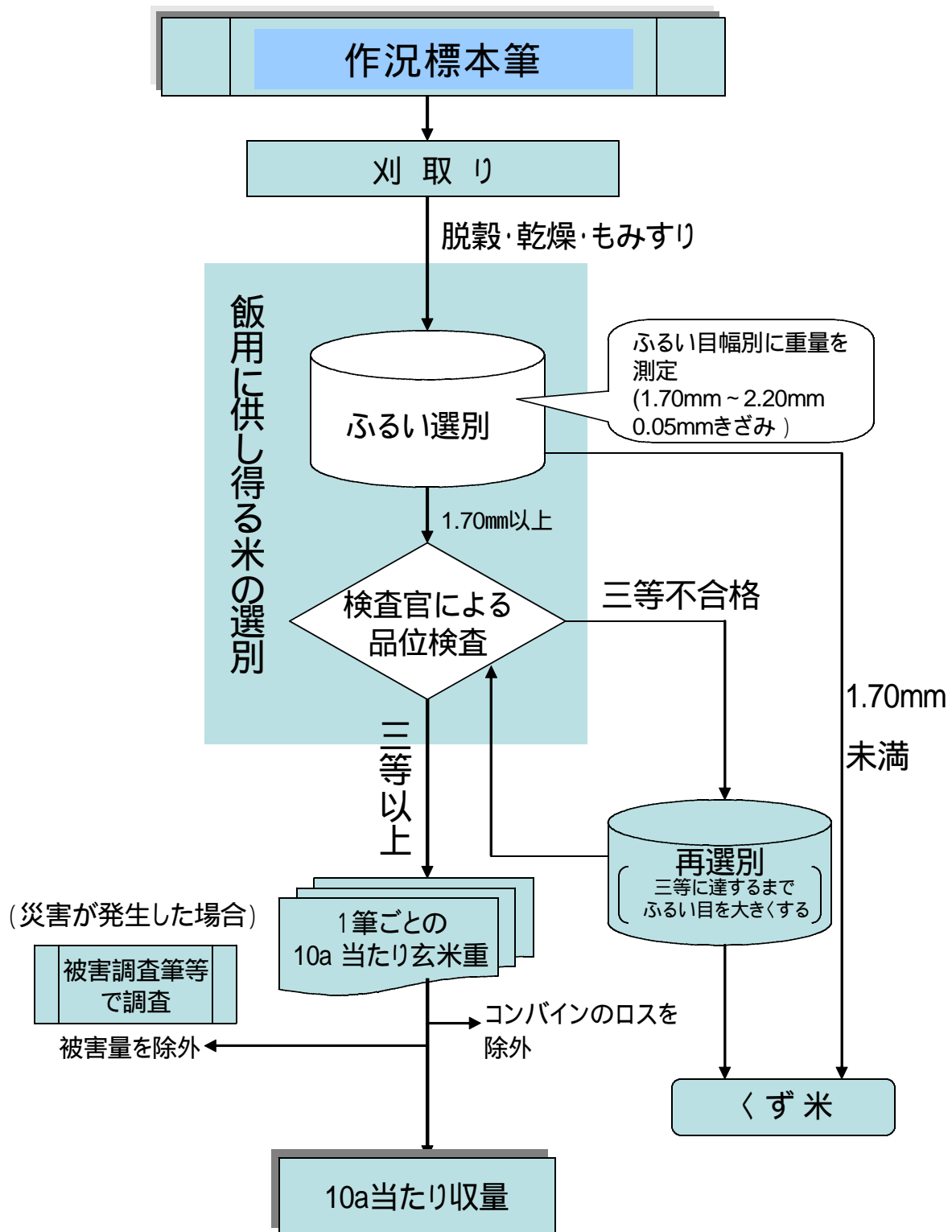
2) (収量内訳)の合計は、10a当たり収量です。

3) 台風等により、未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物検査規格三等に達しない場合は、再選別後の値となっています。

(P7【参考3】参照)

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上となるように玄米の選別を行い、その重さを計測している(下図参照)。



【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の中の水陸稲の収穫量調査として実施し水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政推進のための基礎資料とすることを目的としています。

2 調査期間

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲：7月15日現在
 - イ 陸 稲：収穫期
- (2) 収穫量調査
 - 水陸稲：収穫期

3 調査方法

- (1) 作付面積調査
 - ア 水稲：調査は、標本単位区に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめました。
 - イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りにより取りまとめました。
- (2) 収穫量調査
 - ア 水稲：調査は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び巡回・見積りにより取りまとめました。
 - イ 陸稲：調査は、職員による関係団体に対する面接調査、巡回・見積りにより取りまとめました。

4 調査客体数

- (1) 作付面積調査
 - ア 水稲
標本単位区：5,790単位区 巡回・見積り：261市町村
 - イ 陸稲
面接調査：335団体等 巡回・見積り：261市町村
- (2) 収穫量調査
 - ア 水稲
作況標本筆：1,395筆 作況基準筆：234筆 巡回・見積り：261市町村
 - イ 陸稲
面接調査：281団体等 巡回・見積り：261市町村

5 用語の解説

作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり（予想）収量の比率です。

10a当たり平年収量とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合に取得ると見込まれる収量）より減収した量をいいます。

作況標本筆とは、水稲の作柄や被害状況を把握するため、標本理論に基づいて各地で選定し実測調査を行うほ場（「筆」という）をいいます。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ > 農林水産情報 > 農林水産統計
http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/ht_all.html

九州農政局ホームページアドレス
<http://www.kyushu.maff.go.jp/>

問い合わせ先

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1・2係

電話：(代) 096 - 353 - 3561 内線 4753・4754

直通電話： 096 - 353 - 7574

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画第2係

電話：(代) 096 - 353 - 3561 内線 4723

直通電話： 096 - 353 - 7556